

特別記念対談



小竹直隆 会長

「よみがえれ江戸城」

近未来の為に、

いま出来ることは、何か

小竹会長と浅田理事長が、語り合う



浅田豊久 理事長

— 待望の後継者との出会い、理事長への道を決意 —

司会: 現在、日本を取り巻く様々な課題、特に、人口減少、気候破壊に加えて、国際競争力の低下は、今や待った無しの状況にあります。一方、社会情勢も目まぐるしい変化を続けています。

このように不透明な環境下がありますが、今日はお二人にロマン「よみがえれ 江戸城」のこれまで”と”これから”について、存分に語り合っ戴きたいと存じます。

小竹会長は、およそ20年、この運動を創り、リードして来られました。

浅田理事長は、まさに”時を得た待望の後継者”と、伺っております。

先ず、お二人の出会いについて、お伺いします。(司会：専務理事 内田久江)

浅田: 2004年、六本木ロータリークラブ設立の初代会長に就任した小竹会長に、初めて出会いました。当時、江戸城再建を目指す会の設立に向けた小竹氏の情熱に魅かれ、正会員になりました。また自らの出自が金沢で、加賀100万石の江戸文化に、深く根差していたことでしょうか？

小竹: 初めての出会いから、新米のロータリー会長を、随分助けて戴きましたね。市民運動・NPO時代には、ロータリー国際大会への出店、1000名達成記念の大規模集会場の無償提供等、大変ご支援を戴き、有難うございました。

その後、浅田理事長のご活躍は、漏れ窺っております。(18号本誌プロフィール参照)

公益法人のリーダーを始め、国際ロータリー・ガバナンス等の経験を重ねられ、スケールも大きく頼ましい存在におなりでした。ご出時の背景から文化への造詣も深く、ビジネスも実績があり、まさに「江戸城再生」に相応しい待望のお方として、(公益財団法人)キープ協会の理事長退任を予想して、直っすぐに、お声かけをした次第です。

浅田: 昨年、小竹会長から、お声かけを戴きました。何のバックもない市民運動から始まった江戸城再生の志を未来に向けた時、皆様の”持続的な運動”に敬意を抱くと共に、その重責に身の引き締まる思いでした。これまで築かれてきた運動の成果を継承し、更なる目標達成に向かおうと、吾が身の非力を自覚しつつも、決意した次第でございます。

2024 (令和6年) 3月25日

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

— 浅田屋伊兵衛という祖先のこと、 加賀から、再び、江戸赤坂へ —

司会: 浅田屋伊兵衛商店様は、ご自身のルーツと伺いました。山本一力さんの小説ひむろ飛脚にもなっているようですね、、、。

浅田: 浅田屋伊兵衛という祖先が加賀藩から名字帯刀五人扶持を許されて一昨年がちょうど350年、菩提寺には私ども祖先の記録が全部残っております。江戸と金沢を結ぶ飛脚便のことを「江戸三度」飛脚と申しておりました。江戸藩邸（本郷・上屋敷と板橋・下屋敷）と加賀藩の間で書状を運ぶのが目的でした。過酷で重責を担う「江戸三度」飛脚が何をもって働くか、その背骨の部分が名誉でした。同じく、加賀藩と京都藩邸を結ぶ「京三度」というものもございました。



司会: 明治になり、官営・飛脚業から金沢の旅館浅田屋へ、そして、昭和になり東京の料亭赤坂浅田の開業へと、まさに、時を得て、加賀（金沢）と江戸（東京）が、再び、繋がったのですね。江戸城再生とのご縁は浅田理事長にとって必然のような気が致しますが、、、。

— 加賀百万石・金沢城の二の丸御殿の復元

小竹: 昨年、浅田理事長に金沢城の二の丸御殿復元の為の広大な広場をご案内戴きました。二の丸は江戸時代の後期、千畳敷きの壮麗な御殿となり、実質的には本丸御殿だったのですね、加賀百万石の文化力は金沢のあらゆるところに継承されて、今も脈々と息づいてると実感しました。

浅田: 金沢城全体の復元に向けては、中長期的なビジョンがあるかと思います。既に、菱櫓、橋爪門、鶴の丸土塀、五十件長屋は、古くからから伝わる木造伝統工法で復元されていますね。

司会: 江戸の文化に加えて、京都の雅な文化を合わせもっていますよね。金箔、加賀友禅、織物、陶器、茶の湯と和菓子、祭事、イベント等、花街も美術館も、食文化も素晴らしいです。知人が頻繁に金沢に通うほど魅了されていました。

— 公益社団法人 アメリカンフットボール、 公益財団法人 キープ協会の活動 —

司会: 理事長はアメリカンフットボールをおやりになるのですか？

浅田: はい、学生時代、勉強は全くしませんでした。頭は空っぽ、アメリカンフットボールに明け暮れて真っ黒です。生傷が癒えない毎日で、救急車にも運ばれていました。今でも、時々、先輩の怒声で目が覚めます。



司会: 昨年まで理事長をされていた「公益財団法人 キープ協会」は、キリスト教の宣教師（アメリカ）であり、清里の父と呼ばれるポールラッシュにより設立されたと伺いました。彼は、戦前から一早く日本の青少年の健全な育成、農村コミュニティ、酪農、環境保護等に取り組まれています、、、素晴らしく有難い恩人なのですね。それらは、既に ブランドになっていますが、その 精神は、アメリカンフットボールに 通底しているのでしょうか、、、。

浅田: アメフトも彼が紹介しています。

— ひと筋の道 一貫した公益活動に貢献

司会: 理事長は、国際的な貢献活動「人権・教育・環境」をテーマにした国際ロータリーのガバナーにも就任されています。比国育英会バギオ基金も人権と教育その一環でしょうか。公益法人、ロータリー等の活動は、ボランティア活動であり、一筋に社会貢献活動の道を邁進されておりますが、まさに、江戸城再生と通底していることを感じます。

— 市民運動のこれまでの歩みを振り返り —

司会: さて、小竹理事長は、2004年市民団体江戸城再建を目指す会(後のNPO法人)を創設され世論喚起により、会員総数4000名迄、拡大しました。12年の運動の集大成として、愈々、2017年に財団を設立し、事業構想に着手しました。一昨年は、VISION2032を策定されています。

一筋の道 一貫して「江戸城再生」です。その背景は何でしょうか。

首都として歴史的風格ある美しさの創出
— 育てて戴いたご恩返し —

小竹: 私は長年、観光の仕事で世界の各都市を歩き、その歴史と伝統文化に感動し魅了されてきました。それらを保全する市民や多くの人々のたゆまぬ努力があることに、心うたれ、敬意の念を抱いて参りました。

一方、江戸城跡は石垣とお濠に囲まれた美しい歴史的景観に優れ、世界に比類無き歴史文化遺産の宝庫であり、東京が日本が誇るべき財産であると感じて来ました。

埋蔵されている歴史文化遺産を活かす活動を、して、私を育てて戴いた観光で恩返しができるかと考えてきました。

世界の首都は、観光で久しく厳しい都市間競争を続けています。グローバル化が進む中、歴史的文化的伝統を全面に打ち出し、それらの整備を進めているのです。

その中で日本は、残念ながら後塵を拝しており、文化財や歴史まちづくりの専門家は、大変に残念に思っています。

— 世界の首都のトレンド —
歴史的文化的伝統で競いあう時代に遅れる

浅田: これだけの歴史や文化をもつ大都市江戸東京が、世界の首都のトレンド及び観光面でも遅れをとっているのも、問題ですね。東京の文化財

は日本一多く、伝統工芸も産業も日本有数の都市といわれていますから、...

浅田: 世界経済フォーラムの観光調査でも日本は第一位となり、特に、世界のリーダーや富裕層の期待が、表れている、といわれています。

— 2017年天守単体から
江戸城等全体整備構想への転回 —

浅田: ところで、財団設立時の2017年には、「江戸東京歴史文化ルネッサンスビジョン計画」を策定されて、政策的には、壮大な拡がりへと「展開」していますね、...

即ち、天守単体の運動から本丸御殿を含む江戸城全体構想への「転回」ですね！！

全体構想によれば、旧江戸城及びその城下町の城門や櫓、石垣やお濠等現存する歴史的建造物の保全、本丸御殿等の失われた歴史遺産の復元検討、その周辺の景観、自然保護、エリアマネジメント等の歴史まちづくり法による都市計画全般に関わるビジョンへと、変化を遂げています。

天守台は既に、ヴェニス憲章・条約を批准、グローバルスタンダードにも抵触していますし、極めて難題であると分析されています。

特に、皇室は国際交流を重んじていますからね、、コンセンサスに無理があり、得られない、、

司会: 江戸城再生は、全人未踏の分野でしょう。明治以降、江戸城の歴史文化に関わる都市計画は無かった、行政は動いてこなかった。民間も個人も、どこも、誰もやろうと云ってない。特に、初動期の皆さまには、大変なご苦勞がおありだった、と思います。



—江戸城再生は前人未踏の分野

市民の持続的な運動による舞台づくり—

小竹: 当時、私は暴走老人、と云われていたようですよ、、、。江戸城等全体整備計画は市民運動だけでは無論実現はできません。

認可権や情報を持つ行政が動かないことには、はじまりません。その為には、世界的評価に資する調査研究は手掛かりとしても必須です。第一級の研究者の参加と研究費用、行政の参加、しかも、清潔なお金、清潔な運動が必須です。民間の専門スキルや資金協力、これらの全てが揃うことが前提となります、各主体の役割はシンプルですが、難題といわれています。

これまでも、紆余曲折、山あり谷ありです。資金や人材難、まちづくりに多いトラブル等、苦渋の選択や苦難の道もありました。しかし、それら全てが糧になり、新たな道に繋がりました。止めようと思ったことは一度もありません。



— 浄財への感謝こそ、運動の源泉 —
背中を押して戴いた多くの会員と支援者

小竹: 運動の源泉は、お一人おひとりから戴く浄財、貧者の一灯もあり、「心」です。郵便局の会費振込用紙に書かれるお名前に「有難う、有難う、」と、感謝の想いをこめていました。

これまで支えてくださったのは、多くの会員、寄付者です、暖かいご支援を戴いた人達のお顔が相馬灯のように浮かびます。

どうしたら、漸進できるか、継承できるかの只一点でしたね。

東京駅の復元、外濠の再生等の江戸城周辺の市運動も10年、20年、30年、と地道な活動だからこそ成果をだしています。

本物を求めるヨーロッパの市民運動も、みんなそうでしょう。一朝一石には、ならずですよ。

— 市民運動は継続こそが力 —

目標に向かい地道に活動を続ける大切さを伝える事も私達のミッション

小竹: 明治政府は中央集権化を急ぎ、大正、昭和と、日本史から江戸時代の歴史や文化を薄めてきたと云っても過言ではないでしょう。

しかし、私は埋蔵されている江戸東京の世界に類のない宝を信じてきましたらね。いつの日か、私が世界の都市の歴史文化に魅了されたように、人類の宝として将来、未来の人々が感動や喜び、その恩恵を受けられるように、私達が次世代に継承していけば、必ず、日本最大の城郭都市の実現が出来ると確信してきたのです。

その為には着実な運動の「継続こそが力」です。

江戸の持続可能なまちづくり
— 文化は50年100年を展 —

司会: 持続可能な江戸のまちづくりについて、お話を進めたいと思います。超長寿命を持つ、歴史的建造物群はまさにSDGsにピッタリでしょう。

浅田: そうですね、価値ある江戸城総がまえ全体の完成にも保全にも持続性こそが、都市計画に必要です。

本丸御殿内部の意匠の資材調達についても相当な時間がかかるでしょう。

特に、文化面は、保全を含めて50年100年を展望しないとイケませんね、。

事を成すには、目標に向かって地道に継続的に活動を続けることの大切さを伝えることも、私達の大事なミッションだと思いますね。

若い人に限らず、老若男女その他、多くの人達に、呼びかけていきましょう。



巨大都市を築き上げた徳川三代と天下普請

— 価値ある多くの文化的遺産を残す —

浅田: 徳川三代にわたる天下普請で、江戸城は本丸、天守、石垣、お濠等の素晴らしさもさることながら、平地ではない地形、水資源、これらの構造を生かした巨大都市を築き上げたこと、幕府、武家屋敷、町人町、寺社地区、歓楽街が運河や橋でうまくリンクされている交通インフラや、上下水道、ごみ処理リサイクル等の循環型社会の仕組みが文化的遺産であることを伝える価値がありますね。

しかも、明暦の大火の後、保科正之の有名な「天守再建にあらず」、と町人の救済やまちの復興を優先させたこと、幕府の歴史的な大英断がありましたね。こうした文化遺産の歴史は現代に生きる我々は、多くを学ぶ必要がありますね。

司会: はい、利根川の東遷、荒川の西遷って凄い事を考えますね、俯瞰的に持続可能な都市計画の戦略性は、今の時代にこそ、真新しい、...

以前、陣内先生が今に残る多様な水資源と水辺は東京の誇る財産でありその再評価は自然と人間の共生を目指す21世紀の世界の考え方に大きな示唆を与えるに違いないと仰っておられました。

一方、江戸・都市の開発には、輝やかな光の側面と同時に、災害や追われる人々等にもたらされた影の側面も忘れてはならないのでしょうか。

— 江戸城全体整備構想・特別史跡における歴史建造物群とその価値 —

司会: 江戸城全体整備構想策定(計画)について伺います。

小竹: 「お城」とは、ひとつの建造物に終始することなく城門も石垣もお濠も御殿も櫓も一連の繋がり、即ち「群」としての素晴らしさ、全体としての価値、評価、がありますよね。「整備」とは、修復、復元、新築、保全などの維持管理を含

めた建造物を対象にした広い概念と云われています。

江戸城史跡内の個々の遺構、まずは、歴史的建造物群の状況、加えて、周辺地域の景観や自然保護、環境、また、歴史文化に携わる人々の営みを含め視野に入れた整備計画を順次、策定していくことになるかと思います。

どこから、何から、着手するかも重要ですね。ガウディや市民運動から始まったバルセロナのサグラダファミリアのように、建築や文化の再生を観光化していくプロセスに多くの人々が、参加できる機会も創れますからね、...

— 特別史跡江戸城社は史跡の国宝 風雪に耐え磨き上げられぶし銀の美しさ —

浅田: 2021年の調査研究報告書(江戸東京歴史文化回廊)を観ると、現存する文化財は、史跡の国宝である江戸城跡の他、国の史跡である江戸城外堀跡、外郭の正門常盤橋門跡、国の重要文化財として外桜田門・清水門・田安門等が600余程あり、抜粋がホームページにも掲載されていますね。

失われた城門、櫓、天守、石垣やお濠、本丸御殿等のも多数の痕跡があるのは正直、驚きました。特に、都心は再開発が進んでいますから、...

小竹: 江戸城史跡内の個々の遺構が外濠に至る迄、歴史的建造物が「群」として残っていることに価値があるわけですね。然も、長い間の風雪に耐えて、多くの先人達に磨き上げられた、いぶし銀のような美しさがありますからね、...

浅田: 新しいモノには無い、本物の美しさ、さすが、世界遺産級なのですね。しかし、全体像が見えない事が、実は、大変に問題ですね~。



— なぜ、学術研究が必須か？—
史跡の国宝

小竹: 学術上の価値が極めて高いこと、です。現在は、一般に開放されていますが、国宝・特別史跡での制約もあります。石垣やお濠、公園や城門等に至る有形無形の国宝や重要文化財等が関わり、国有財産、行政財産、皇室財産もあり宮内庁、文化庁、環境省等、東京都、千代田区等の行政の管理が夫々複雑に関わっています。文化財や観光等、専門分野を代表する第一級の研究者や関連する組織による調査研究が、しかも世界的評価に資するものが、必須となるでしょう。

司会: 特別史跡皇居東御苑等は、史跡の国宝です。文化財は世界の宝としてのグローバルスタンダード（法律）を遵守する義務があること、建造物群の保全や復元の検討は、江戸城跡の歴史的、文化的価値を明らかにして「厳しい世界的評価」に資することが前提となるわけですね。



— 日本の城の中の城 江戸城本丸御殿 —
復元の活用イメージ

浅田: 本丸御殿は、江戸幕府、即ち、日本の政治や文化の中核であり、また、将軍の住まいでもありました。江戸城再生にとっての意義や価値、必要性が、審議の俎上にどのようにして上るのか、関心がありますね、復元江戸城本丸御殿により、日本の城全体の価値は高まりますし、世界的価値もから観てもです。全体整備計画の中でも、復元検討は、ハイライトでしょうね。

司会: はい、そう思います。

—江戸城本丸御殿は復元が可能—
(復元図・1860年)

浅田: 復元図は、1860年（万延元年）新築された「万延度本丸御殿」について、甲良家文書では「万延度の江戸城本丸御殿」の作事に関わる資料で現在まで残っている大工文書の中の白眉といえるものがある、と伺いました。

司会: 江戸城の第一人者である平井聖東京工業大学名誉教授が、この復元図に6年の歳月をかけて研究開発しています。そのプロジェクトの有り様やCGはNHKで放映されています。その中で平井聖先生は「この復元図で、直ぐに復元できますよ。」と明言されています。

小竹: 国宝や重文の復元にあたっては、まずは、文化財の保存を第一義とすることが肝要です。一方で、観光資源としても多様な活用を模索したいと考えてきました。

浅田: 復元や活用のイメージは、本丸御殿の玄関、大広間、松の廊下、白書院、黒書院、能舞台、大名登城路、石垣、土塁、城門（見附）等、やはり、メインのところとなるのでしょうかね。

小竹: 既存の歴史的建造物群と合わせての活用方法も含めても俎上に上がり、国宝や重文の活用はヨーロッパの事例も参考になると思います。研究者のご審議を期待しておりますが、私達会員等の間でも議論していきましょう。

浅田: 石垣も無く、土地はフラット、建物の高さもなく、相当広いスペースですし、しかも、内外の文化財の法にも抵触せず、活用の範囲は大きいと言えるでしょうね。極めて、難題である「天守」とは異なりますね。

— 壮大な江戸城全体整備計画—
提言活動が愉しみ

浅田: 江戸城全体整備計画が完成して、それを公開し、関係機関への提言も待ちとおしいですね。

— 復元本丸御殿と歴史的建造物
「活用」のときめき・楽しさ—

浅田: 江戸城の歳時記の再生、能舞台の活用、大広間や廊下では、伝統文化と現代音楽のコラボレーション、町人との交流イベント、お神輿で入城する天下祭り等、多彩な催しが期待され、わくわくしますね。

小竹: 古くからヨーロッパのユニークベニューは有名ですが、そのストーリーにも感動があり、価値がありますよね。日本でも京都二条城の大政奉還の間を活用するなど、イベント等多彩な催しがされるようになりました。

日本版の江戸城ユニークベニューは本当に楽しみです。

浅田: 新らしさにない、歴史的建造物群の個々の歴史や文化、それらのストーリーも含めて、奥深い感動をもたらすでしょうね。

—江戸東京の歴史文化資源—
プラットフォーム

司会: 歴史文化資源を活かした観光まちづくりについて、お伺いします。

プラットフォームの背景は、歴史文化基本構想をベースに「ハード」（歴史上価値の高い建造物等の文化財や周辺の市街地の景観、自然保護等）があります。

加えて、祭り、年中行事、歴史と伝統文化を反映した人々、その生活の営みや活動も「ソフト」としての重要な課題として位置付けています。

現在の「観る食べる遊ぶ」の観光情報を加えていくことにより、相当な付加価値が高くなり、経済効果も高いのではないのでしょうか？

小竹: 歴史文化資源を活かした観光まちづくりは、江戸城全体整備構想と表裏一体となる活動として、位置付けて来ましたからね。

— 江戸から現代にいたる
多彩な文化・ソフトが魅力 —

浅田: 全体整備構想をハードとしたら、文化はソフトとして位置付けて、ハード・ソフトの両面が活かしあうことにより、観光まちづくりが生み出す豊穡な世界に拡がり、繋がって行くのではないかということですか！！

現代の観光スポットも入れてね、それは、期待出来ると思います。やはり、ソフトがないとね！



浅田伊兵衛商店（赤阪浅田）でも、加賀藩が、夏に江戸城に氷を運び、将軍に献上した「氷室の祭り」を再生し、前田家ご当主等をお招きし、その由来のお話を伺う等、多くの方々に楽しんで戴いています。

文化を守り継承する人々の日常活動に光を

特に、文化を守り、継承する人々の活動があつてこそその文化です。そこに、スポットライトを当てたいですね。いづれ、江戸東京に隠れている魅力あるストーリーを、沢山発掘していくことが期待されますね。

—コロナ禍により、活動は停滞—

司会: 2021年の調査研究報告書の600件から抜粋した文化財等をホームページで掲載しています。コロナ禍により3年間、残念ながら、活動は停滞しました、GISなどによる時空間情報等デジタルの活用もさることながら、先ずはアナログによる十分な体制整備の検討が重要と考えています。

江戸城再生の羅針盤 「近未来の世界遺産を目指す」 — 何故? —

司会: 2018年、未来を切り拓くために、江戸城再生の羅針盤ともいえるべき「近未来の世界遺産を目指す」を掲げています。

小竹: 世界遺産登録申請は、極めて大変な道のことであることを認識しております。到底、一朝一夕に申請できるものではありません。しかし、江戸城の再生について、誰かが言い出すこと、次世代に継承していくことが大切ですね。その継承のプロセスが重要です。

江戸城跡は、城郭も壮大で四季折々の美しさや石垣やお濠も素晴らしい。世界に比類なき歴史と文化をもち、久しく世界遺産に匹敵すると言われてきました。摩天楼に代表される高度化された都心の再開発でこれらの遺産を守りきれぬのか、強い危機感もあります。

従って、江戸城全体整備構想策定もまちづくりも世界的な評価に資する相応しいものを構想段階から求めていく必要がありと考えてきました。

江戸城全体整備計画の策定 新たな視点を検討

浅田: 復元江戸城は1000年を超える超長寿命と伺いました。世界遺産になれば、世界中の多くの人々に感動を与えられること、観光・経済波及効果は持続的で大きいですからね。

京都、大阪、奈良の関西圏は上手く活用しています。東京都の世界遺産は小笠原諸島だけですからね～。

司会: 現在、世界遺産は1000件を超えています。数が多くなり、2020年からは、各国一件のみの申請となり狭き門のようです。登録申請する県は、今後は審査機関である*イコモス国内委員会の協力を得ながら準備を確実にしていくことが不可欠になってくると思われます。

浅田: 「江戸城全体整備計画の策定」を目指し、早い段階からの準備が必要ですね、そのためにも、これまでの実績を活かして新たな視点を検討してまいりましょう。江戸東京の文化芸術の振興及び地域社会の健全な発展に寄与すべく着実に進めていきたいですね。

持続的な運動、担う人達の継承こそポイント テレワーク等、老若男女問わず、 多様なボランティアで参加

司会: 江戸城跡周辺の市民運動は、江戸の地形を生かした遺構の保存、外濠の再生、神田川の川下り、江戸の歴史・文化を学ぶ、文化財巡りなど、地域の住民や大学、企業市民、自治体などにより産学官民の多様な連携による活動が地道に進められてきました。しかし、この数年、どこもコロナ禍で苦闘し、今も続いています。

市民運動の使命 伝える続けること、声をあげる事の大切さ 提言活動の意義

当会のボランティアも、学生さんは20代、兼業の方々は40代からと、専門スキルや事務作業等、テレワークでもご参加いただいております、誠に頼もしい限りです。問題は継続性です、「続けて」と、伝えています。市民運動のレベルでは、「目標に向かい地道に活動を継続することが結果を出す、そして声を上げ続ける事が大切と、伝える事は私達の使命ですから、…。

浅田: その意味では提言に繋げていくプロセスや提言活動の持つ意義は重要になりますね。提言についての対談や座談会も開催して行きましょう。



司会: 小竹会長、浅田理事長、長時間、お疲れ様でした。

「江戸城再生」のこれまでとこれからについて、様々な角度から語り合っただき有難うございます。運動の継承にあたり、今後、新たに活動する皆様にとっても一つの運動の手がかりになると存じます。当会は、これまで、世界が憧れる都市東京を目指し、我が国の文化・芸術の振興に並び江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくりの形成・発展に寄与することを目的として、広く一般社会に普及・啓発を推進し、関係機関に提言活動を行ってまいりました。

去年は、「VISION 2032」の普及・啓発、提言活動を振り返り、会員、関係個所、有識者等の視点を軸に検証を行ってまいりました。特に、江戸城に関連する自治体は、歴史まちづくり推進の希望がある一方、縦割り行政の実状や再開発の推進から東京全体を俯瞰する取り組みは残念ながら進まず、の現状にあります。引き続き新たな視点を検討し行政や民間、関係機関への提言活動を進めて参ります。

*現在の活動は、次の1・2については、「よみがえれ 江戸城」リーフレットに纏めさせて戴いております。

1. 学術調査研究による世界的評価に資する「江戸城全体整備計画の策定」は、事業と運動にとって、無くてはならない手掛かりとなるものです。
人・モノ・特に、相応の費用が必要であり、出来るところから進める「時」であるとの認識を深めて参りました。
2. 調査研究の成果は、広く社会一般に普及啓発すると共に行政や関係機関への提言活動を推進して参ります。

以上、二つの課題により、江戸東京の文化芸術の振興及び歴史文化資源を活かした観光まちづくりによる地域社会の健全な発展に、貢献をすべく取り組みを進めて参ります。

何卒、皆様のご理解とご参加・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

参考（インターネット掲載から抜粋、青字は当会ホームページ掲載）

- ・浅田屋伊兵衛商店
- ・ひむろ飛脚（山本一力）
- ・金沢城二の丸御殿復元
- ・国際ロータリークラブ
- ・比国育英会バギオ基金
- ・公財）キープ協会 ポールラッシュ
- ・公社）アメリカンフットボール
- ・保科正之と徳川幕府の英断
- ・万延度江戸城本丸御殿と甲良豊後守
- ・イコモス国内委員会（ユネスコの諮問機関で世界遺産登録の審査モニタリングの活動を行う国際 NGO）
- ・江戸城再生
- ・[ご存じですか？江戸城本丸御殿](#)
- ・[ご存じですか？東御苑天守台座\(石垣\)](#)
- ・[2004年市民団体創立からこれまでに至る主な活動の歩み](#)
- ・[特別史跡皇居東御苑における歴史的建造物の在り方（理事長特別メッセージ）](#)
- ・[*天守単体からの江戸城全体整備構想へと転回](#)
- ・[VISION2032（江戸東京歴史文化資源を活かした観光まちづくり）](#)
- ・[リーフレット よみがえれ江戸城](#)

